

□D□R□E□A□M□V□I□S□O□R□.□C□O□M□□

失敗を生かす力

失敗せずに大成した人はいない

株式投資に失敗は付き物だ。どんなに偉大な投資家も、振り返ると赤面したくなるような失敗を数え切れないほどしているはずである。まして筆者自身も含め発展途上にある投資家は、日常茶飯事のように失敗するのが普通であり、それでいちいち縮こまっていたら生きていけない。失敗がいいか悪いかといえば悪いに決まっているが、自分自身の身をもって失敗を経験しないと身に付かない知識というものがある。取り返しの付かない失敗は困るが、ある程度の痛みを伴い、そこから再出発して挽回可能であるならば、その失敗は無駄ではない。どころか、失敗から学び取ることができた知恵は、その後の人生を送るうえで大きな財産になるものだ。あえて言えば失敗の経験から得た知識や度胸のおかげで生きていけるといってもいいくらいだ。

失敗などしない方がよい、せずに済ませられるならしたくない、という人もあるだろうがそれは間違っている。相場の世界に限らず、失敗を経験せずにある程度の位置まですくすくと育ってきた人は、確かにその人自体は優秀な場合も多いのだが、ブレーキの掛け方を知らず、本当の危険を受け流す知恵もないため、未経験のわなに嵌まって肝心なところで高転びに転びやすいものである。そうでなければ、危険性を伴う物事を一切回避してきたということになり、臆病者の世間知らずのまま時間を過ごしたことになるってしまう。

それでは人から信用されるはずがないし、大きな仕事はできないだろう。今の日本で株はリスクがあるから嫌だと言っていたのでは、自分が銀行口座に入れた金額に毛の生えた程度しか利益が得ることができない。老後の資産形成さえうまくいかず、結局のところリスクを嫌いすぎたために、大きなリスクにご対面することになってしまうだろう。

失敗による損失を「授業料」という場合もあるが、筆者は中学生の頃から父親に「授業料は高いほど身に付くからいいんだ」というようなことを言われてきた。しかし、だからといって父が大きな失敗をしろと言っているようには思えなかった。たぶん、「チャレンジした結果が高い授業料に付いても、それがバネになるからあまり落ち込むな」、というほどの意味だったのではないかと思う。だが、「私の履歴書」などでひとかどの成功者の方々の話に数多く出会ってみると、ほとんどの人が大きな挫折や障害に直面し、それをどうにかこうにか克服してその後の人生を切り開いていったようである。

全部が全部というわけではなさそうだが、高い授業料はそれなりの効果がありそうである。また、前回述べたように「艱難汝を玉にす」という教訓からも、不運や

失敗はその後の成長に至るジャンピングボードになるケースが多いようである。問題は、ではいかにしてそのような逆境からその後に生きる知恵を引き出すかである。

失敗や逆境からの学習能力も一つの才能

大体、実社会では優等生タイプの学校秀才よりも、学校時代の成績はともかく、多少悪さをして周囲から目を付けられていても同年輩の連中からは妙に好かれる、という人の方が頼りになるし、実際に成功している場合が多いように思う。キャラクターが違うといってしまうえばそれまでだが、要するに生身の人間としての現場体験の多い少ない、もっと言うてしまえば失敗体験の豊富さがその差の原因ではないか。

ハインリヒの法則というものがある。「1つの大きな災害事故の陰には、同じ原因による 29 の小さな事故と、犠牲を出さずに済んだ 300 の事故がある」というものだ。最近では「1匹のゴキブリを見つけたらその 30 倍がひそんでいると思え」という教えに転用されているようだが。この伝でいくと、最近の小中学生の自殺も、未遂あるいは単に表面化していないだけのものが実際の件数の 30 倍はあるということになってしまいそうだ。

見方を変えると、失敗が起きた原因として明確なものは一つだけだが、致命的でないにしてもないがしろにされていたポイントが 30 くらいは見つかるものだということだろう。それは基本的な知識の不足ということもあり、心構えや姿勢の問題ということもあろう。また、何かの事情でいつもの手順で確認作業や準備ができなかったり、予想外の出来事で作業が混乱したということもあるだろう。しかし結果は結果であり、言い訳くらいはできても、取り返しは付かないのである。その責めは自分が負うしかない。

一番大事なことは、失敗を自分の責任と認めつつ、もう二度とこんなことはごめんだととことん口惜しがることだ。二度とごめんだと思いつつ失敗の事例を徹底分析し、傾向と対策を検討し、徹底的な準備を行えばこそ再戦に臨むことができる。これは非常に大事な才能だ。筆者の経験では、リベンジに向かって努力するときほど、熱意をもって効率的に自分の持っている精力を集中できることはない。その過程で自分がいかに未熟、あるいは無知、無防備であったために負けたかを悟ることもでき、次第に敗北や失敗にわだかまりはなくなる。その分、素直に正しい知識を吸収することができる。

ある程度のレベルまでもっとも早く上達したいのであれば、適切な指導者や先輩、教科書を見つけて徹底的に食らいつくことである。大いに時間の節約になること請け合いである。彼らの持っている知識や経験をそっくり頂戴することで、貴重な時間を節約できる。反面、内向して自分で自分を磨くという要素が少なくなるだけに、重厚さというか、その後の展開に向けた適応力の幅が少なくなるかもしれない。

人間は嫌な記憶をすぐ脳から消してしまいたい本能があるので、嫌なこと、辛いことがあった場合や、大事な教訓はぜひノートに書きとめておくといよい。それを習慣にするだけで、勝ち組に仲間入りできると思う。

(了)

----- 最終的な投資判断はご自身で
お願いします。本文、データなど本メールマガジンの内容すべてに関する正確性、
信頼性、安全性、迅速性などに 直接または
間接的に起因する損害や費用などの一切について、その程度を 問わず、ドリームバ
イザー・ドット・コム（株） および マネックス証券（株）、NPO 日本個人投資家協
会、その製作者、
データ提供者、 その他関係者は責任を負わず、損害賠償に応じません。 また、メー
ルマガジンの本文、データなどは著作権法などの法律、規制 により知的所有権が保
護されており、個人の方の本
来目的以外での使 用や他人への譲渡、販売コピーは認められていません（法律によ
る例外 規定は除く）。以上の点をご了承の上、メールマガジンをご利用くださ
い。
